

研究所年報 巻頭の言葉

和漢医薬学総合研究所は 2010 年より和漢医薬学に特化した国内唯一の附置研究所として文部科学大臣より「和漢薬の科学基盤形成拠点」に認定され、数多くの拠点事業を推進してきました。本事業では、和漢医薬学に関する公募型共同研究を積極的に進め、他の大学や研究機関の多くの関連研究者と密接な連携をして本分野の発展に貢献する研究を実施し、得られた成果をセミナーやシンポジウム等を開催しました。また、同じく研究拠点に認定された長崎大学熱帯学研究所との第 1 回ジョイントセミナーを同研究所にて 2011 年 2 月に開催して拠点間交流を実施しました。

本研究所の組織は、8 分野と 1 寄附部門からなる<研究部>と薬効解析部、外国人客員部、国際共同研究部、民族薬物資料館からなる<民族薬物研究センター>と拠点事業推進室から構成されています。しかしながら、拠点として事業をさらに推進するためには、より強力で機能的な組織体制を構築・整備する必要があるとの観点から、所内の将来計画委員会において各分野や部門のスタッフ構成を含めた組織の見直しと再編を図っています。

2011 年は 2010 年 6 月の新しい民族薬物資料館の完成と資料の管理・整備に引き続き、生薬資源の分類-化学成分-薬効等の総合データベース（和漢薬 Wiki DB）の構築と拡充を進めております。さらに、資料館 3 階の改修工事後には、北京大学、南京中医薬大学、チュロンコン大学及びカイロ大学との連携を推進するための国際交流拠点室、共同利用・共同研究拠点室、会議室等に加えて、富山県と連携した地域貢献の一つとして、資料公開に向けた展示物保管室の設置等にも取り組んでおります。

このように、共同利用・共同研究拠点の組織・機能の充実を図りつつ、所員が一丸となり和漢医薬学研究の進展を図る所存ですので、今後共、皆様方からの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年 1 月

和漢医薬学総合研究所 所長 済木育夫